

1 家庭科における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項

(1) 2 学年間を見通した指導計画の作成及び工夫 (全面实施 4 年目)

- ① 家庭科で育てたい児童の姿の明確化
- ② 題材の構成 (A (1)アは, A~D の内容と関連を図る。D は, A, B, C の内容と関連を図る。他教科等, 学校行事との関連を図る。)
- ③ 段階的な題材の配列: B (3)「調理の基礎」, C (3)「生活に役立つ物の製作」
- ④ 題材で身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能の明確化 (小・中の連携)
- ⑤ 学校や児童の実態及び指導時間等を踏まえた適切な題材の検討

(2) 創意工夫する能力や実践的な態度を育てる指導方法と評価方法の検討

- ① 題材の指導と評価計画の作成 (A (1)アの評価, D を位置付けた計画)
- ② 評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料の活用
- ③ 問題解決的な学習の充実
- ④ 言語活動の充実 (話し合い活動, 実践レポート)

(3) 教育環境の整備

- ① 計画的な整備
- ② 安全の確保…ガスの漏えい, 着火 (未使用のガス栓誤開放・点火未確認・ゴム管の劣化)
- ③ 食品等の安全で衛生的な取扱い (ジャガイモによる食中毒)
- ④ 調理に用いる食品 (生の魚や肉は扱わない, 家庭から持参する場合の留意点)

2 家庭科における思考力・判断力・表現力の育成のための指導と評価

(1) よりよい生活を目指して課題を解決する能力 ⇔ 生活をよりよくしようと工夫する能力

- 思考力** 身近な課題を様々な角度から考える
- 判断力** 考えたことを基に課題の解決を図る
- 表現力** 自らの考えを的確に表す

【 評価の観点 】
生活を創意工夫する能力

(2) 「生活を創意工夫する能力」を育むための問題解決的な学習の充実

- ① 生活について見直し, 課題を見付ける。
 - ・ 家庭の仕事の観察, 生活時間の調査, 調理, 掃除等の実践的・体験的な活動を行う。
 - ・ 課題の設定は, 題材の目標達成を目指すものとなるようにする。
- ② 比較検討して, 解決方法を考える。
 - ・ これまでの生活, 経験, 家庭でのインタビューなどから情報収集し, 課題について様々な角度から考えられるようにする。
 - ・ 課題解決の方法を考え, 試行したり, 比較検討したりして, それぞれのメリット, デメリットを明らかにする。
- ③ 計画を立て, 課題を解決し, 振り返る。
 - ・ 学習環境を整備し, 実践過程の記録や達成状況の振り返りから次の課題を明確にする。
 - ・ 実践結果を発表し合い, 課題の共有化を図る。
- ④ 家庭との連携 (学んだことを生活に生かす)
 - ・ 家庭科便り等で, 学習のねらいや内容についての情報提供, 実践への理解を深める。

2 年間を見通して, 段階的に進め, 繰り返し, 効果的に組み込むことが重要

(3) 「思考力・判断力・表現力」の評価

- ① 「生活を創意工夫する能力」の観点
 - ・ 結果としての創意工夫だけでなく、家庭生活に問題意識を持ち、課題解決を目指し、自分なりに工夫する過程を含めて評価する。
 - ・ 子どもが考えたり、工夫したりしたことを図や言葉でまとめ、発表し合うなど、言語活動を中心とした表現に係る活動を通して評価する。
 - ・ 家族の一員として、家庭生活を改めて見直し、自分の生活の中から課題を見だし、身に付けた知識や技能を活用して生活をよりよくしようとしているかを評価する。
- ② 「問題解決的な学習」の過程で、自分自身の学びの状況把握
 - ・ 自己評価や相互評価の時期や内容について検討する。
 - ・ 学習の過程で、生活を創意工夫する能力について把握する方法や評価場面を工夫する。
- ③ 「言語活動の充実」のポイント
 - ・ 本時のねらいに迫る学習課題を明確にする。
 - ・ 児童の考えや気づきを自分の言葉でワークシート等に記入できるようにする。
 - ・ グループで自分の考えや気づきを話し合い、考えをまとめ、再度記入できるようにする。
 - ・ 学級で発表し合い、自分たちの言葉で実感を伴ってまとめるようにする。

3 家庭科の学習評価の改善

(1) 評価規準の適切な設定

- ① 2学年を見通した指導計画を基に、題材で指導する内容を明確にし、目標を実現した児童の姿を具体的に記述 ⇔ 題材の評価規準、学習活動に即した評価規準
- ② 題材の指導目標を明確にし、「評価規準に盛り込むべき事項」及び「評価規準の設定例」を参考に設定する。
- ③ 学習活動に即した評価規準を「評価規準の設定例」を参考に設定する。
- ④ どの時間も4観点ではなく、その時間のねらいや学習活動に照らして、いずれかの観点到重点を置くなど、適切に設定する。(評価場面・評価方法の明確化)

(2) 評価方法の工夫改善

- ① 様々な評価方法の中から、その場面における児童生徒の学習状況を的確に評価できる方法を選択する。
 - ・ 児童生徒による自己評価や相互評価を工夫する。
 - ・ ワークシート等への記述内容から児童の資質や能力を多面的に把握できるように工夫し、活用する。
- ② 授業改善のための評価を日常的に行うようにする。(PDCAサイクルの充実)
 - ・ 実現状況をどのように把握し、次の授業にどのように生かしていくか検討する。
 - ・ 評価方法は、適切かどうかなどを実践して検証する。

4 参考となる文献

- ・ 「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」(平成23年11月国立教育政策研究所教育課程研究センター)、初等教育資料 平成25年12月号(「生活を創意工夫する能力」を育む家庭科の授業づくり)、平成26年6月号(「家庭科の問題解決的な学習における思考力・判断力・表現力等の育成」)